



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫 ■ 「在米メキシカン受難」②

入院中の者も、高齢者も、死に瀕している者も容赦なくメキシコに送還させられた。メキシカンのリーダーたちは、「どうして自分たちだけが、このような目に遭わねばならないか。この地は本来、私たちの墳墓の地ではないか」と抗議をしたのだが、危機的状況にある白人たちに聞く耳を持つ者はいなかった。人種差別は明白であった。彼らの追放によって農業が大きなダメージを受けると警告されたとき、本当のアメリカ人であるオーキー(オクラホマ州在住白人)がすると釈明した。実際、彼らはその間隙を埋めた。やがてルーズベルト大統領によってニューディール政策が執行されると、就職口が開かれ、さらに太平洋戦争が始まり、メキシカンへの締め付けがようやく解除されることになった。

メキシコ自体も経済的危機にあつた上に、百万人近い流入によってますますその状況が苦しくなつてゆく。彼らの二十五%近い人々は一文なしで、仕事にもなじめず、子供たちは言葉が分からず、混迷を極めた。追放されたメキシカンは百万人といわれているが、自由立ち退きをした人も多く、正式な人数は不明である。この悲劇は彼らの教科書にも載らず、彼らは多くを語るうとしめない。恥じと考えているからだ。アメリカ国内でも実態を知っている人は少数である。

だが、近年の市民権運動の高まりで、当時の状況が知られるようになり、幾つかの大学ではチカノ(アメリカ在住メキシカン)運動によってようやく当時の様子が陽の目を見るようになってきた。日系社会においては強制収容された人たちに對する補償がなされたこともあり、彼らの間でも、市民権運動が盛り上がり、補償問題を取り上げられるようになっていく。現在、法的な手段でアメリカ政府からの謝罪を求めているが、具体的には何も進んでいない。同様の経験をした日系社会にはアメリカに対して声を上げることが求められている。メキシカンの国外追放から七十年後の今、アメリカによる裏切りの思いは消えることはない。だが金銭的な補償を求めている訳ではない。ただアメリカからの謝罪が欲しいのだ、と彼らは叫ぶ。『羅府新報』二〇〇八年十二月六日付。

主イエスはユダヤ官憲の手にかかり、裁判のため大祭司官邸に拘引された。そこに居たペテロに人々が、「あなたも、あの弟子のひとりではないか」と言うと、彼は「いや、そうではない」(ヨハネ十八・25)と否んでいる。3度までも！ 神とまで慕う人をさえ否み、十字架での殺害すら黙認している。キリスト受難である。それが私たちの姿である。ああ、人の弱さのなせる哀しさよ！

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウェスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

